

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービスセンターみどり				公表日	2025年6月30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	・スペースは十分にある。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	・法令上の人員配置基準は満たしている。	・今後は、職員のスキルアップに努め、専門性を備えたスタッフの配置を努める。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	・情報伝達に関しては、カードや五十音表を活用し、配慮をしている。	・子どもが分かりやすく過ごしやすい環境を整え、適切な配慮を行っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	・毎日の清掃・消毒を行い、清潔な環境を保てるようにしている。	・床の汚れが気になるので、業者へ依頼をする予定。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	・個別で部屋を使うことはできるが、他児と共同になることもある。	・本人の気持ちの切り替え等で個室対応ができるよう、安心安全な環境作りを心がける。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	・朝の申し送り、月に1回の児童デイ会議を設け、情報共有の場がある。	・うまく伝達できるような会議の進め方、必要な情報が共有できるような仕組み作りに努めていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・保護者評価を実施し、ご意見をもとに職員間で話し合い、改善につなげている。	・職員全体で、保護者の意向を把握し、よりよい支援ができるよう改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・朝の申し送り、月に1回の児童デイ会議の場で職員間の意見を聴ける場ある。・ヒヤリハットやイベントの確認等で業務の改善点があれば、全体で共有し、改善につなげている。	・日頃から意見の出しやすい場を作り、よりよい支援へ繋げられるよう、働きやすい環境作りに繋がるよう業務改善に努める。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5		・外部評価の実施に至っていない。今後必要に応じて検討したい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	・法人研修、外部研修、オンラインでの研修を設けている。職員のスキルアップにつながるよう参加している。	・今後も、職員の専門性の研鑽、資質向上に努めていく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	・2025年3月に支援プログラムをホームページにて公表。	・作成したプログラムを5月に開催した保護者会で周知・説明を行った。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	・モニタリング時に子どもと保護者のニーズに沿った課題の確認し、個別支援計画を作成している。	・今後も、職員間で共有し、よりよい支援へつながるよう作成していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	・支援に関わる職員全体で会議を持ち、一人ひとり情報共有を図っている。	・職員間の共通理解、統一した支援ができるよう、今後は、非常勤職員が会議に参加できるような時間設定をしていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	・個別支援会議で決定したことを全体で共有し、計画に沿った支援ができるよう、いつでも確認できるようにしている。	・いつでも確認できるように、ファイル化し、手元で確認できるようにする。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	・日々の記録や、行動観察をしっかりと行い、アセスメントをとり、計画書の作成や支援につなげている。	・児童の成長に合わせ、日々アセスメントを取り、記録・申し送り・会議で共有していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	・ガイドラインに沿った支援内容を踏まえ、個別支援計画に反映している。	・今後も5領域に関する支援内容を具体的に設定する。家族支援・移行支援・地域支援・地域連携のねらいに沿った支援も具体的に設定していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	・職員間で話し合い、プログラムを作成している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	・同じ活動でも、飽きないようにルールを変更したり、追加したりと固定化しないように工夫している。		

供 給	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	・時間を分けて個別活動・集団活動を組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	・毎朝、申し送りを行い、一日の支援・プログラムの確認を行っている。	・申し送りで共有できることは、社内ネットワークの活用し再度確認する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	・その都度、気になったこと、申し送りは行い、記録に残している。社内ネットワークを活用し、全体で共有できるようにもしている。	・送迎等で時間が取れないときは、翌日、朝の申し送りで再度確認をしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	・日々の支援に関する記録について、個別記録を徹底している。うまくいったケースを共有し、今後の支援へもつなげている。	・支援後、送迎等に入ると、記録を入力する時間が取れないことが課題になっている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	・職員全体で、概ね6か月に一回モニタリングを実施。全職員で関わり、計画の見直しを行っている。	・非常勤職員への伝達がうまくいかないことがあったので、時間帯を工夫していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	0	・1日のプログラムの中で、複数組み合わせて支援を行っている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	1	・活動の中で、児童が選択すること、意思表示ができるような場を設定し、参加してもらう工夫をしている。	・児童がやりたいことが時折準備ができていないことがあるので、教材や道具の準備が課題。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・児童発達支援管理責任者を中心に参加している。必要に応じて、他の職員も参加してもらうこともある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	・学校での面談や送迎時の申し送りでは連携体制は整えている。	・地域の保険・医療との連携はほとんどない。今後の課題となっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	・保護者と学校とも情報共有を行っている。	・学校（担任）によって、うまく共有できないこともある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	・就学前に利用していた関係機関と直接的な情報共有はできていないが、計画相談員を通して、情報共有を行っている。	・小学1年生にタイミングで利用に繋がった児童が少なかったので、就学前に利用していた関係機関の関わりが少なかった。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	・移行支援会議に参加し、支援内容の情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	・児童発達支援センターが実施する研修に参加している。	・参加することはあるが、スーパーバイズや助言を受けることがまだないので、今後実施していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	4	1	・夏休みや冬休みに地域の子ども園をお招きし、交流会を実施。	・学童や児童館との子どもたちと交流する機会がなかった。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5	・参加する機会がなかった。	・今後、機会があれば自立支援協議会への参加も検討していく。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	・日々の送迎時にその日の出来事等を共有している。必要に応じて、個別の相談の時間を設けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	・ペアトレの研修を受講している。研修等の案内を保護者へも行っているが、参加にはなかなか繋がらない。	・研修案内だけになり、参加に繋がらないことが多いので、事業所主催にしたり、体験型にしたりと工夫が必要。
運 営 方 法	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	・契約時に管理者・児童発達支援管理責任者が説明を行っている。	・利用者負担等はわかりにくいため、説明時に工夫が必要。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	・作成する前に、児童や保護者との面談を行い、意向確認の場を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	・保護者に支援内容の説明を丁寧に行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	・日頃からのやりとりの中で、子育ての悩みや相談を受けることが多いが、必要に応じ面談を実施し支援を行っている。	・より相談しやすい環境設定が必要。相談窓口の設置、案内の工夫が必要。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	2	・年2回保護者会を実施、保護者間の交流の場は定着してきた。	・親子レクとして家族参加にしたが、きょうだい同志の交流の場がないので、今後はきょうだい支援としてイベントの開催を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1	・相談や申し入れがあった場合は、電話や面談にて迅速かつ適切に対応できうよう努めている。	・苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し、契約時に説明。今後も迅速な対応に努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	2	・ホームページにて活動の様子をアップしている。	・ホームページの活用をもっと増やしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	・個人情報が記載された書類は鍵付きキャビネットにて保管。	・今後も個人情報の取り扱いには十分注意していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	・ホワイトボードの活用、五十音表の活用で子どもに合わせた情報伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	・縁和会まつりへ地域の方々をお招きしたり、専門学校や大学の実習生受け入れも行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	・各種マニュアルは策定済。職員へは職員会議等で周知。法人全体で訓練を実施している。	・訓練を実施しているが、保護者への周知が不足しているので、安心していただけるよう周知方法を再度確認したい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	・BCP策定済 法人全体で訓練を行っている	・子どもたちと一緒に避難する訓練が課題。今後は、火災だけでなく、地震・津波避難箇所の確認等をしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	・契約時に確認。	・てんかん発作がある児童がいるので、緊急時に適切に対応できるよう、定期的に保護者と状況確認・服薬状況の確認を行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	・契約時に確認し、管理栄養士、看護師を交え情報共有を行い、食事提供をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	・安全計画を作成、安全管理に必要な研修・訓練を法人全体で行っている。	・安全計画を適切に活用するため、毎年見直しを行っていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	・安全計画を作成し、保護者会での周知、ホームページ上で公表している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	・ケガや事故につながる前に小さな気づきを「グリーンレポート」で、法人全体で共有し、修繕・再発防止を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	・法人で虐待防止委員会が設置され、各部署から委員が参加し、ケースを法人全体で共有、話し合う場がある。	・全員は参加できないので、会議録を確認してもらい、全体の共有を図っている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	・虐待防止・身体拘束廃止委員会を設置し、法人全体で身体拘束の必要性・適正化を検討する場を設けている。	